

個性を強かに変える

比田 勝 中学校

2年 東 健太郎

みなさんは吃音という症状は知っていますか？例えば、「何？」とききたい時に「なな何？」という発音で話してしまう症状です。相手に思いを上手く伝えたいのに、伝えられないことがある怖い症状なのです。実は、僕は、自分にほんの少しこの症状があるのかなと感じたことがあります。

僕は、昨年の終了式で一年間の振り返りをする大役を任せられました。家でも学校でも何度も繰り返し読む練習をしました。練習ではすらすら前を向いて話すことができ、楽しむことができました。当日は、始まる寸前までたくさん練習しました。

いざ本番。前に出るとすこく緊張して不安になりました。読み始める時、初めの発音がつかまってしまい、上手く話すことは出来ませんでした。発表後はがくと悔しくてやり直した

い気持ちでいっぱいでした。でも、教室に戻る際にたくさんの人から「発表良かったよ」と声をかけてもらって嬉しかったです。一番嬉しかったのは、先生の「内容を伝えようとする姿勢がすごく良かったよ。」

「誰もが緊張する場だから自分を責めずにいてほしい。」

と前向きな言葉ももらったことです。この言葉で、とても勇気ができました。吃音は、すぐに直るものではありません。発表の場などでも吃音が出て恥ずかしくなる場面がたくさんあります。しかし、家族から、「吃音も笑いに変えれば気にならないういんぴやない？」

と言われ、自分の人生も大きく変えることができたと感じます。その言葉がきっかけで、自分に自信が持てるようになり、吃音のことでも悩むことがなくなりました。

これからは、吃音と上手につきあひ、時に

味方にけつて、言葉がつかってしまっても

策にのびはらぬように、気持ちもあつて

にたいてす。